１８年度「ＮＩＥで磨く国語力」№４７年　組　番　氏名

「見るからに（１）文弱の徒。こういう仲間がいるなら自分も大丈夫」。のちに歴史研究家で名をなす①直木孝次郎（　　）さんと会った日の印象を、海軍の仲間が記している。②コガラ（　　）で色白、不安げな瞳の青年は「万葉集」を③携（　　）えて入隊した▼（２）虚飾を排し、真情を歌いあげる万葉集をこよなく愛した。≪Ｘ　　≫当時の日本は文学どころではなかった。家族を思う本音すら語れない。④セイカン（　　）を祈りながらも「お国のために死んでこい」と送り出さねばならない⑤フウチョウ（　　）を嘆いた▼終戦時は２６歳の海軍士官。戦後は史学に打ち込み、「古事記」「日本書紀」にある誇張や宣伝臭、朝廷賛美を鋭く見抜いた。⑥コフン（　　）時代に王権の交代があったという見解を⑦唱（　　）え、（３）脚光を浴びる。今月初め、１００歳で亡くなった▼大阪市立大学で歴史を教えるかたわら、⑧イセキ（　　）の保存運動に力を尽くす。奈良県吉野町のゴルフ場建設では反対の先頭に立ち、代わりに「万葉植物園」の建設を訴えた。万葉ゆかりの景勝地の保全を求めた和歌の浦訴訟も支援に入った▼〈戦いに負けて日本はよくなれどそのため死にたる人の多さよ〉〈はじ多き一生なれどけんめいに生ききていつか九十六歳〉。晩年は歌作に励み、朝日歌壇にもその名がたびたび登場する。技巧に走らず、戦争世代の実感をまっすぐに詠みこんだ▼⑨ソッチョク（　　）であれ。真意を⑩偽（　　）るな。そんな信念が、研究や保護運動、短歌を貫く。まさに「万葉調」の人生ではないか。「文弱の徒」であるかに見えて、たぐいまれな闘志の持ち主であった。

〔２０１９年２月１９日「天声人語」〕

問一　①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二　傍線部（１）について、読み方と意味を答えよう。

読み方（　　）

意味（　　）

問三　（あ）～（え）は、傍線部（２）の作品例である。作品のテーマについて語群からそれぞれにあてはまるものを選び、（　）内に記号を書き入れよう。

（あ）田子の浦ゆうち出でてみれば真白にそ不尽の高嶺に雪は降りける（　）

（い）紫草のにほへる妹を憎くあらば人妻ゆゑにわれ恋ひめやも（　）

（う）防人に行くは誰が背と問ふ人を見るが羨しさ物思ひもせず（　）

（え）近江の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしのに古思ほゆ（　）

〔語群〕ａ　夫婦の別離の悲しみ　ｂ　鳥に重ねた寂しさ

ｃ　絵画的な叙景歌　ｄ　切ない恋愛感情

問四　≪Ｘ≫にあてはまる言葉を次から選び、書き入れよう。

・つまり　・だから　・しかし　・さらに

問五　傍線部（３）に関する次の（ア）～（ウ）に適する２字熟語を書き入れよう。

・「世間の（ア　　）の的になる」という意味だが、（イ　　）はフットライトのことで、「俳優が（ウ　　）に立つ」ことから転じて用いられている。

問六　次は直木氏の朝日歌壇賞作品である。（　）内に適する２字を書き入れよう。

・特攻は命じた者は安全で命じられたる者だけが（　　）

問七　見出しを１０字程度で考えよう→（　　）